

2008年3月期 中間報告書

2007年4月1日～2007年9月30日

フィールズ株式会社 証券コード:2767

Fields
2008



代表取締役会長 (CEO) 山本 英俊

クロスメディアビジネスの展開を加速。

国民各層の余暇時間の増大とともに、エンタテインメント産業全体が多様化する今日、余暇市場は大きな構造変化の時を迎えています。

当社グループは、こうした時代の環境変化をいち早く予見し、パチンコ・パチスロ分野を起点に、かねてよりデジタルコンテンツの多元的利用を基幹とする戦略を企業競争優位性構築の基盤と捉え、その推進に注力してまいりました。今や当社グループの事業領域は、パチンコ・パチスロ市場はもとより、ゲームソフトウェア、スポーツ、映画、アニメーションなどに拡がり、幅広いエンタテインメント分野をカバーするグループを形成するに至っております。

当中間期においては、これらの各分野で積極的な事業展開および投資を行いました。モバイル分野においては携帯サイトの会員数が順調に拡大し、映画分野においては映画ファンドを通じた出資第1号作品が公開されたのを皮切りに、続々と当社グループ出資作品の上映が行われるなど順調に推移しております。また、アニメーションの企画・制作・プロデュースを目的としたルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)が新たに活動を開始するなど、一層のグループ基盤の強化に努めました。

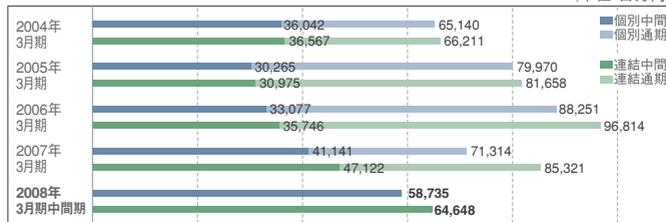
今後も、グループ各社間でのシナジー効果の最大化を図り、コンテンツの融合や多面展開などのクロスメディアビジネスを強力に推進していくことで、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

> 財務ハイライト

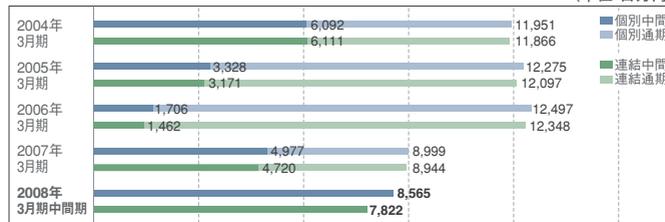
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



良質なコンテンツを戦略的に投入。

当中間期の業績概況につきましてご報告申し上げます。

中核事業であるPS・フィールドにおいては、新規則対応パチスロ遊技機の入替需要を見込み、パチスロ遊技機の販売に注力し、「デビルメイクライ3」、「新世紀エヴァンゲリオン～まごころを、君に～」などに代表されるゲーム性豊かな商品を戦略的に提供いたしました。また、パチンコ遊技機については、中間期は2タイトルの投入にとどめ、この間に下半期以降に発売予定のタイトルの質的向上を図るべく抜本的な見直しに取り組みました。

ゲーム・フィールドにおいては、コンテンツのクロスメディア／ワールドワイド展開をさらに加速させ、また、その他フィールドにおいては、一次コンテンツの創出に向け、引き続き様々なエンタテインメント分野への積極的な投資を行いました。

以上の結果、当中間期の売上高は64,648百万円（前年同期比37.2%増）、営業利益は7,822百万円（同65.7%増）、中間純利益は3,077百万円（同38.3%増）と、増収増益となりました。

現在、パチンコ業界では、良質なコンテンツおよびエンタテインメント性の重要性が従来にも増して高まりを見せていますが、当社グループでは今後とも、主力のパチンコ・パチスロ遊技機における企画・開発力の向上に努めるとともに、デジタルコンテンツの多元的利用を基幹とする戦略を推進し、積極的な事業拡大を図ってまいります。

また、ビジネスの拡大・成長を支える経営基盤強化の仕組みづくりの一貫として、2007年10月から新基幹システムを稼働させ、急速な市場変化への迅速な対応が可能となりました。今後も当社グループ全体の価値最大化に向けた仕組みづくりにも継続的に取り組んでまいります。

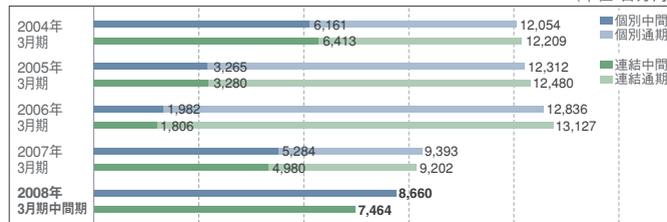
株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長（COO） 大屋 高志

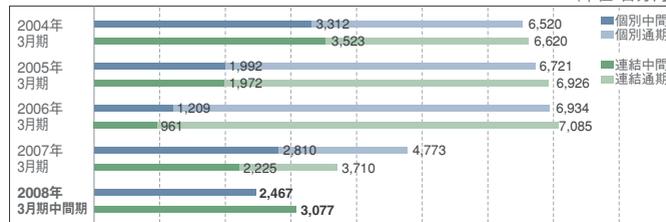
経常利益

（単位：百万円）



中間(当期)純利益

（単位：百万円）

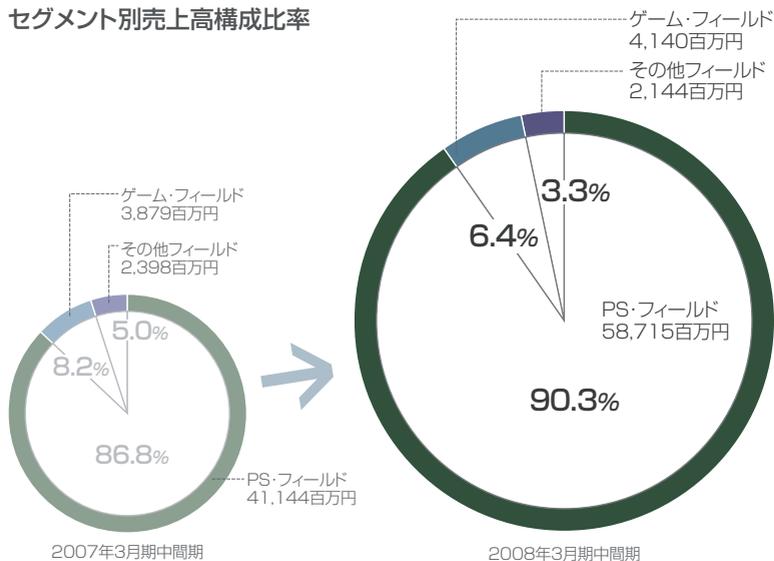


多彩な収益モデルを有するゲーミング&エンタテインメント企業へ。

当社グループは、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」提供すべく、かねてよりデジタルコンテンツの多元的利用を基幹とする戦略を企業競争優位性構築の基盤と捉え、その推進に注力しています。

当中間期においても、当社およびグループ会社間でのシナジー効果の最大化を図り、良質なコンテンツの創出と保有を実現し、コンテンツの融合や多面展開などのクロスメディアビジネスを強力に推進しています。具体的には、パチンコ・パチスロ分野をはじめ、ゲームソフト、スポーツ、モバイル、映画、アニメーションなど各分野に積極的な投資を実施し、ゲーミング&エンタテインメント企業としての基盤の整備を行っています。

セグメント別売上高構成比率



PS・フィールド

> 事業内容

グループの中核セグメントとして、パチンコ・パチスロ遊技機の企画・開発および販売を行っています。サミー(株) / (株)ロデオ、SANKYOグループ・(株)ビスティ、(株)オリンピアなど有力メーカーとのコラボレーション体制を確立し、グループで獲得した有力コンテンツを活かし、エンタテインメント性の高い商品を生み出しています。

ゲーム・フィールド

> 事業内容

PS・フィールドとのシナジーが高い同フィールドをコンテンツのクロスメディア展開における重点セグメントと位置づけ、グループ子会社の(株)ディズリーをはじめ各社を通じて、国内外でゲームソフトウェア販売事業を展開しています。

その他フィールド

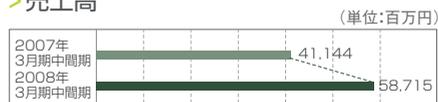
> 事業内容

コンテンツのクロスメディア展開を牽引すべく、グローバルにコンテンツが豊富なスポーツマーケティング分野、他のメディアと親和性の高い映画・アニメーション分野、新しいメディアとして存在意義を高めているモバイル分野などで、積極的な事業投資を行っています。

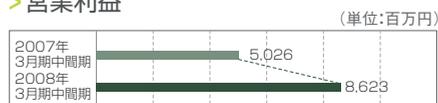
> 当中間期概況

新規対応パチスロ遊技機の大規模な入替需要を見込み、パチスロ遊技機の販売に重点を置いて事業展開した結果、その販売が好調に推移しました。以上の結果、当セグメントの売上高は58,715百万円(前年同期比42.7%増)、営業利益は8,623百万円(同71.6%増)となりました。

> 売上高



> 営業利益



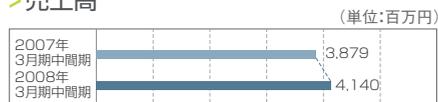
> 主なグループ企業

- フィールズ(株)
- フィールズジュニア(株)
- (株)ロデオ

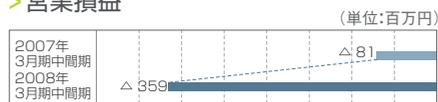
> 当中間期概況

ゲームソフトウェア販売が、日本・北米・欧州の各地域で拡大しましたが、下半期に欧米市場で発売予定の大型タイトルに関する広告宣伝費などの先行投資が発生しました。以上の結果、当セグメントの売上高は4,140百万円(同6.7%増)、営業損益は359百万円の損失となりました。

> 売上高



> 営業損益



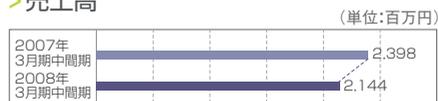
> 主なグループ企業

- (株)ディースリー
- (株)ディースリー・パブリッシャー
- (株)エンターテインメント・ソフトウェア・パブリッシング
- D3Publisher of America, Inc. (米国)
- D3Publisher of Europe Ltd (英国)
- D3DB S.r.l. (イタリア)
- Vicious Cycle Software, Inc. (米国)
- (株)シンクアーツ

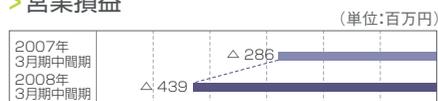
> 当中間期概況

スポーツ分野のライセンス事業において、一部大型ライセンスの販売が遅延しました。また、将来のグループシナジー発揮に向けた積極的な投資によりコストが先行しました。以上の結果、当セグメントの売上高は2,144百万円(同10.6%減)、営業損益は439百万円の損失となりました。

> 売上高



> 営業損益



> 主なグループ企業

- ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)
- ホワイトトラッシュチャームズジャパン(株)
- フィールズピクチャーズ(株)
- (株)フューチャースコープ
- ジー・アンド・イー(株)
- (株)角川春樹事務所

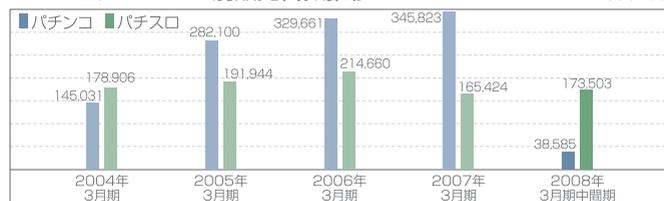
※グループ企業の事業内容はP14を参照ください。

エンタテインメント性に優れた遊技機を続々投入。

近年、パチンコ・パチスロ遊技機上に表現されるコンテンツの重要性がますます高まっています。当中間期は、新規則対応パチスロ遊技機の入替需要に対応するとともに、エンタテインメント性に優れ、商業的に価値の高い遊技機の企画・開発に注力しています。

パチンコ／パチスロ別販売台数推移

(単位:台)



>パチンコ遊技機販売事業

下半期以降に発売予定商品の質的向上へ注力。

新規則対応パチスロ遊技機への入替えに対応するため、パチンコホールの短期的な資金がパチスロ遊技機購入にシフトすることを予測し、当中間期においては2タイトルの投入にとどめました。この間に今後発売

を予定しているすべての商品を見直し、質的向上を図っています。下半期については、大型タイトルをはじめパチンコホールおよびファンのニーズにあった良質な商品をタイミングよく提供していきます。

>パチスロ遊技機販売事業

入替需要に応える有力タイトルを投入。

旧規則対応パチスロ遊技機の設置期限に伴う過去最大の入替需要が、当中間期の6月、7月および9月に集中すると見込み、パチンコホールおよびファンのニーズに応えるべく、この期間に6タイトルを積極投入し、ゲーム性豊かな商品を安定的に供給することで、新時代のパチスロ市場の開拓に努めました。なかでも、(株)カプコンの全面的な協力によって実現した(株)ロデオ製「デビル メイ クライ 3」は、新たなゲーム性が支持

され、累計約4.9万台販売のヒット商品となりました。さらに7月に投入した(株)ビステイ製「新世紀エヴァンゲリオン ～まごころを、君に～」が市場の高評価を得て、累計約9.8万台販売(当中間期約9.6万台計上)の大ヒット商品となり、業績向上に大きく寄与しました。

下半期は、新たなファン層を獲得できるようなエンタテインメント性、ゲーム性に優れた有力商品を安定的に提供していきます。

> 下半期発表済タイトル

2007年10月31日現在

■パチンコ遊技機



◀ 「CRマスク・オブ・ゾロ」
©1998 Tristar Pictures, Inc.
All Rights Reserved.
©2007 Zorro Productions, Inc.
All Rights Reserved.



◀ 「CRAフェリックス・ザ・キャット」
TM&©FELIX THE CAT PRODUCTIONS, INC.



◀ 「CRTトゥームレイダー」
©2007 Paramount Pictures Corp.
All Rights Reserved.
Lara Croft and Tomb Raider are trademarks of Eidos Interactive Limited. Eidos and the Eidos logo are trademarks of the Eidos Group of Companies.
All rights reserved.

■パチスロ遊技機



◀ 「ビーチクラブ」



◀ 「バーチャファイター」
©SEGA
©Sammy
©RODEO

中間期までの発売タイトル



◀ 「CRルーニー・テューンズBIA」
TM&©Warner Bros. Entertainment Inc. (s07)
Produced under license by Cross Media International, LLC

下半期以降に
発売予定商品の
質的向上へ注力



◀ 「CRサクラ大戦」
©SEGA
©RED
©Sammy

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

入替需要に応える
有カタイトルを投入

▶ 「モーニング娘。」
©UP-FRONT AGENCY/FIELDS



▶ 「デビルメイクライ3」
©CAPCOM CO.,LTD. 2005 ALL RIGHTS RESERVED./
ILLUSTRATIONS: Kazuma Kaneko/ATLUS
©Sammy ©RODEO



◀ 「新世紀エヴァンゲリオン
〜まごころを、君に〜」
©GAINAX・カラー／Project Eva.



◀ 「快傑ハリマオ」
©宝弘企画



◀ 「くりぃむしちゅー」
©くりぃむしちゅー
©Sammy
©RODEO



◀ 「マスクオブゾロ」
©1998 Tristar Pictures, Inc.
All Rights Reserved.
©2007 Zorro Productions, Inc.
All Rights Reserved.
©Sammy ©RODEO



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

コンテンツのマルチユース化を着実に推進。

グループで推進するコンテンツのクロスメディア事業における重点セグメントと位置づけ、日本、北米、欧州での事業展開を加速しています。当中間期は、引き続きグローバルコンテンツによるタイトル展開に注力するとともに、国内モバイル事業を強化しました。

日本

「フルプライスソフト」のヒットをはじめ、モバイルの会員数も好調に推移。

コンシューマ事業

国内市場向けでは、主力商品である「SIMPLEシリーズ」を主にニンテンドーDS向けに商品展開を行うとともに、当社とのシナジービジネスであるパチンコ・パチスロ遊技機用シミュレーターソフト「CR新世紀エヴァンゲリオン～奇跡の価値は～」が16.5万本を出荷するなど、堅調に推移しました。



「CR新世紀エヴァンゲリオン～奇跡の価値は～」

©GAINAX・カラー／Project Eva.
©Bisty
©D3 PUBLISHER

モバイル事業

「SIMPLE100シリーズ」(月額課金制)では、携帯電話端末の最新機能に対応した直感対応ゲームの配信を開始しました。そのほか、女性向けコンテンツサイトやリッチゲームコンテンツ「SIMPLE500シリーズ」の充実を図り、新規会員の獲得と既存会員の満足度向上に注力しました。



SIMPLE100シリーズ



欧米

北米で「NARUTOシリーズ」がヒット。欧州では、タイトル投入を本格化。

海外市場向けでは、北米でグローバルコンテンツの2タイトルを積極的に投入し、欧州においては日本および北米から供給されたタイトルの販売に注力しました。また、下半期に発売を計画しているグローバルコンテンツ「darkSector」に先行投資しました。



「Naruto」

Naruto: Clash of Ninja Revolution and Naruto: Path of Ninja NARUTO ©2002 MASASHI KISHIMOTO.
Game and Software ©2007 TOMY, CLASH OF NINJA™ and ©2002 TOMY, PATH OF NINJA™ and ©2007 SHUEISHA. All rights reserved.

>Topics

グローバルコンテンツ「darkSector」投入。

下半期投入予定のPS3・Xbox360向け「darkSector」は、次世代コンソールのためにすべて新しくデザインされたオリジナルタイトルであり、ワールドワイドに展開していきます。



「darkSector」

©2007 Digital Extremes, London Canada. Dark Sector and the Dark Sector logo are trademarks of Digital Extremes. Digital Extremes and the Digital Extremes logo are trademarks of 1085522 Ontario Ltd. ALL RIGHTS RESERVED. Published by D3 Inc. under license from Digital Extremes. All other trademarks are property of their respective owners.

コンテンツ市場への多彩なアプローチを展開。

スポーツ、モバイル、映画、アニメーションなど各分野において、一次コンテンツの創出などに向け積極的な事業展開を引き続き推進しています。商業的に付加価値の高いコンテンツをパチンコ・パチスロ遊技機、ゲームソフトなどに展開し、グループの競争優位性を高めていきます。

> モバイル分野

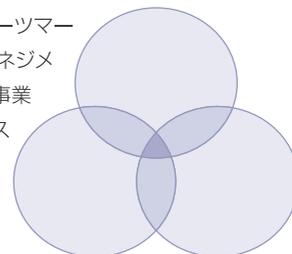
「フィールズモバイル」が順調に会員数を拡大。

エンタテインメント情報の総合コンテンツを提供するモバイルサイト「フィールズモバイル」を2007年2月にNTTドコモの公式サイトとしてサービス開始。以降、順調に事業を拡大し、有料会員数は約18万人（9月末時点）を超えました。また、2007年8月に

> スポーツ・マーケティング分野

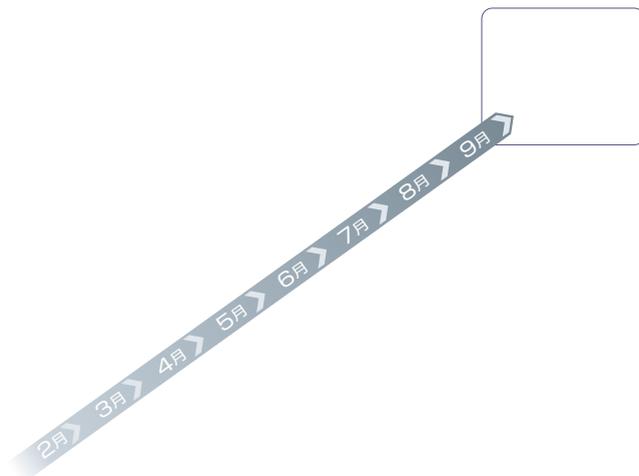
3事業を軸に、スポーツ関連市場を開拓。

グローバルにコンテンツが豊富なスポーツマーケティング分野においては、アスリートマネジメント事業が順調に推移し、ソリューション事業のトータル・ワークアウトは顧客サービスの拡充に努めました。一方、ライセンス事業では一部の大型ライセンスの販売が遅延しました。



> 映画・アニメーション分野

映画ファンドを通じた出資第1号作品が公開。



中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間末 2006年9月30日現在	当中間連結会計期間末 2007年9月30日現在
資産の部		
流動資産	51,640,164	54,056,902
現金及び預金	18,568,634	21,667,917
受取手形及び売掛金	24,111,565	20,891,307
たな卸資産	2,844,322	4,035,304
その他	6,165,173	7,599,837
貸倒引当金	△ 49,530	△ 137,464
固定資産	18,155,138	21,198,245
有形固定資産	4,574,305	7,568,907
無形固定資産	3,350,065	3,997,857
のれん	1,626,741	831,308
その他	1,723,324	3,166,548
投資その他の資産	10,230,767	9,631,480
投資有価証券	6,618,605	5,298,569
その他	3,768,839	4,718,867
貸倒引当金	△ 156,677	△ 385,955
資産合計	69,795,303	75,255,148

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間末 2006年9月30日現在	当中間連結会計期間末 2007年9月30日現在
負債の部		
流動負債	22,757,990	26,432,871
買掛金	14,835,970	14,290,663
短期借入金	1,634,200	3,688,000
1年内返済予定長期借入金	935,722	854,036
1年内償還予定社債	120,000	120,000
未払法人税等	—	3,833,626
賞与引当金	25,000	17,400
役員賞与引当金	50,000	64,000
受注損失引当金	—	17,826
その他	5,157,097	3,547,319
固定負債	4,840,981	4,023,513
社債	430,000	310,000
長期借入金	1,688,816	834,780
退職給付引当金	179,376	199,539
その他	2,542,789	2,679,194
負債合計	27,598,972	30,456,384
純資産の部		
株主資本	40,096,121	43,270,020
資本金	7,948,036	7,948,036
資本剰余金	7,994,953	7,994,953
利益剰余金	24,153,131	27,327,030
評価・換算差額等	492,162	2,799
その他有価証券評価差額金	485,012	△ 16,558
為替換算調整勘定	7,150	19,358
新株予約権	—	26,905
少数株主持分	1,608,047	1,499,038
純資産合計	42,196,331	44,798,764
負債純資産合計	69,795,303	75,255,148

(注) 会計処理の変更
(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正(「所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号」及び(法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号))に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

当社及び国内連結子会社は、当中間連結会計期間から、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

(注) 表示方法の変更
(中間連結貸借対照表)

前中間連結会計期間末まで流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「未払法人税等」は、負債純資産の総額の100分の5を超えることとなったため、区分掲記することに変更いたしました。なお、前中間連結会計期間末の「未払法人税等」の金額は、2,634,636千円であります。

中間連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間 2006年4月1日~2006年9月30日		当中間連結会計期間 2007年4月1日~2007年9月30日	
	売上高	47,122,183	64,648,654	
売上原価	33,071,677	47,203,972		
売上総利益	14,050,506	17,444,682		
販売費及び一般管理費	9,329,941	9,621,694		
営業利益	4,720,564	7,822,987		
営業外収益	292,271	223,803		
営業外費用	32,152	582,732		
経常利益	4,980,682	7,464,058		
特別利益	129,563	46,974		
特別損失	84,092	953,504		
税金等調整前中間純利益	5,026,154	6,557,528		
法人税、住民税及び事業税	2,578,204	3,704,711		
法人税等調整額	220,714	△ 8,972		
少数株主利益又は損失(△)	1,572	△ 215,632		
中間純利益	2,225,661	3,077,421		

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前中間連結会計期間 2006年4月1日~2006年9月30日		当中間連結会計期間 2007年4月1日~2007年9月30日	
	営業活動によるキャッシュ・フロー	2,316,755	7,328,708	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,528,289	△ 3,824,298		
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,992,541	111,281		
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,125	8,435		
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	2,790,132	3,624,127		
現金及び現金同等物の期首残高	15,777,313	17,819,928		
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	188	10,322		
現金及び現金同等物の中間期末残高	18,567,634	21,454,378		

中間連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日~2007年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等			新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2007年3月31日残高	7,948,036	7,994,953	24,943,694	40,886,683	214,822	13,609	228,431	15,907	1,705,668	42,836,691
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 694,000	△ 694,000	—	—	—	—	—	△ 694,000
中間純利益	—	—	3,077,421	3,077,421	—	—	—	—	—	3,077,421
連結範囲の変動	—	—	△ 85	△ 85	—	—	—	—	—	△ 85
株主資本以外の項目の中間 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	△ 231,381	5,748	△ 225,632	10,998	△ 206,629	△ 421,263
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	2,383,336	2,383,336	△ 231,381	5,748	△ 225,632	10,998	△ 206,629	1,962,072
2007年9月30日残高	7,948,036	7,994,953	27,327,030	43,270,020	△ 16,558	19,358	2,799	26,905	1,499,038	44,798,764

中間貸借対照表

(単位:千円)

科目	前中間会計期間末 2006年9月30日現在	当中間会計期間末 2007年9月30日現在
資産の部		
流動資産	42,100,451	45,214,633
固定資産	19,179,327	21,376,445
有形固定資産	3,880,056	7,090,930
無形固定資産	1,597,873	2,941,194
投資その他の資産	13,701,398	11,344,320
資産合計	61,279,779	66,591,078
負債の部		
流動負債	17,569,294	20,375,686
固定負債	2,706,912	2,671,564
負債合計	20,276,206	23,047,251
純資産の部		
株主資本	40,518,560	43,560,386
資本金	7,948,036	7,948,036
資本剰余金	7,994,953	7,994,953
利益剰余金	24,575,570	27,617,396
評価・換算差額等	485,012	△ 16,558
その他有価証券評価差額金	485,012	△ 16,558
純資産合計	41,003,572	43,543,827
負債純資産合計	61,279,779	66,591,078

中間損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間会計期間 2006年4月1日~2006年9月30日	当中間会計期間 2007年4月1日~2007年9月30日
売上高	41,141,324	58,735,503
売上原価	28,789,862	43,164,951
売上総利益	12,351,462	15,570,552
販売費及び一般管理費	7,373,800	7,005,497
営業利益	4,977,661	8,565,054
営業外収益	309,193	223,205
営業外費用	2,244	128,110
経常利益	5,284,610	8,660,148
特別利益	132,351	43,913
特別損失	7,363	4,459,587
税引前中間純利益	5,409,598	4,244,474
法人税、住民税及び事業税	2,296,389	3,457,314
法人税等調整額	302,334	△ 1,680,387
中間純利益	2,810,874	2,467,546

(注) 会計処理の変更
 (有形固定資産の減価償却方法の変更)
 法人税法の改正((所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号) 及び (法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号)) に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。
 (追加情報)
 当中間会計期間から、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

中間株主資本等変動計算書 (2007年4月1日~2007年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	利益剰余金合計					
				別途積立金	繰越利益剰余金						
2007年3月31日残高	7,948,036	7,994,953	7,994,953	9,580	20,000,000	5,834,270	25,843,850	41,786,839	214,822	214,822	42,001,662
中間会計期間中の変動額											
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△ 694,000	△ 694,000	△ 694,000	—	—	△ 694,000
別途積立金の積立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中間純利益	—	—	—	—	—	2,467,546	2,467,546	2,467,546	—	—	2,467,546
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 231,381	△ 231,381	△ 231,381
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	1,773,546	1,773,546	1,773,546	△ 231,381	△ 231,381	1,542,165
2007年9月30日残高	7,948,036	7,994,953	7,994,953	9,580	20,000,000	7,607,816	27,617,396	43,560,386	△ 16,558	△ 16,558	43,543,827

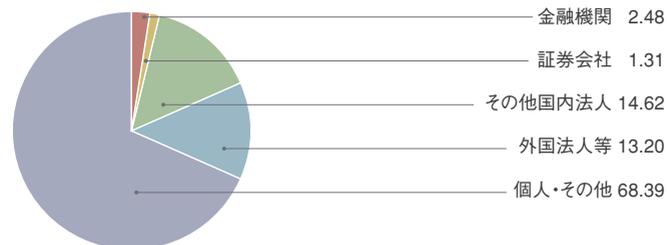
株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
株主数	12,965名

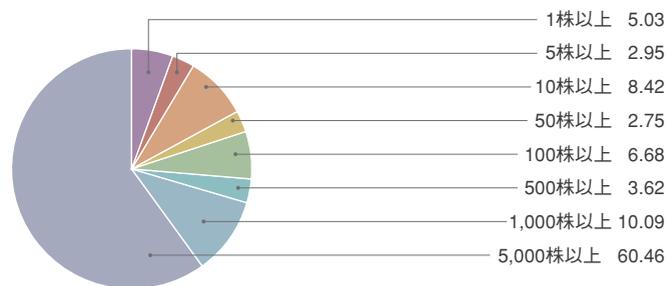
大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	105,200	30.32
山本 剛史	40,000	11.53
サミー株式会社	27,500	7.93
有限会社ミント	16,000	4.61
アールビーシー デクシア インベスター サービスズ トラスト ロンドン レンディング アカウント	11,028	3.18
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,056	1.45
大屋 高志	5,000	1.44
ザ チェース マンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	4,191	1.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,614	1.04
クレディット スイス チューリッヒ	2,721	0.78

所有者別分布状況 (%)



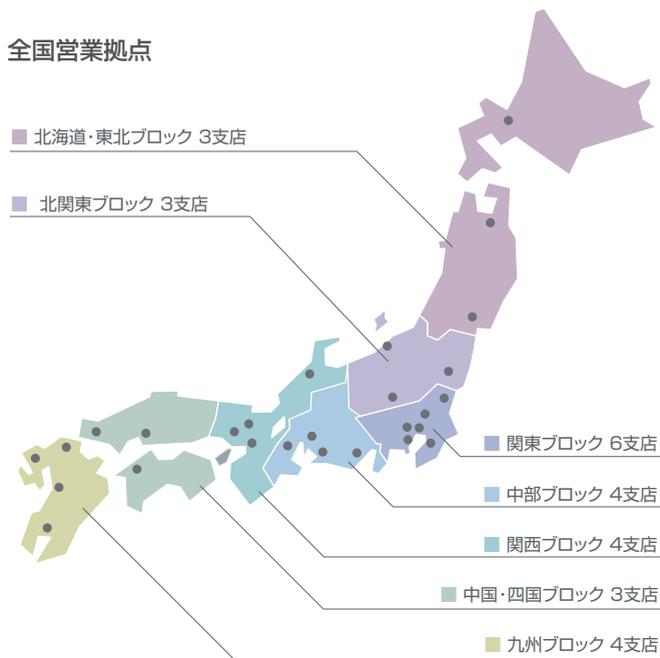
所有株数別分布状況 (%)



会社概要

商号	フィールズ株式会社 (英文名: FIELDS CORPORATION)	
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」	
設立	1988年6月(1983年に東洋商事の名で事業を開始)	
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E:スペースタワー	
事業内容	1) 遊技機の企画開発 2) 遊技機の仕入、販売 3) キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4) 映像ソフトの企画開発、販売	
取締役 及び 監査役	代表取締役会長	山本 英俊
	代表取締役社長	大屋 高志
	専務取締役 グループ戦略本部長	繁松 徹也
	専務取締役 事業統括本部長	松井 一夫
	常務取締役 事業統括本部副本部長 兼開発本部長	秋山 清晴
	取締役 計画管理本部長	山中 裕之
	取締役 社長室長	末永 徹
	取締役	糸井 重里
	常勤監査役	松下 滋
	監査役	小池 敕夫
	監査役	古田 善香
	資本金	79億4,803万円
従業員数	1,076名(連結)	
連結対象会社	ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社	
	フィールズジュニア株式会社	
	フィールズピクチャーズ株式会社	
	株式会社フューチャースコープ	
	株式会社ディースリー	他11社

全国営業拠点



当社ホームページのご紹介

業績情報やプレスリリースなど、最新の情報を随時発信しています。
ぜひご利用ください。



TOPページアドレス
<http://www.fields.biz>



IRページアドレス
<http://www.fields.biz/ir/j>

主要グループ会社一覧

PS・フィールド

株式会社ロデオ



当社はパチスロ機のトップメーカー、サミー株式会社のグループ会社であるロデオに資本参加し、その総発売元となっています。サミーグループの高い開発力と、当社の有力商品化権および企画開発力を融合したコラボレーションを積極的に推進しています。



フィールズジュニア株式会社

全国で約1,200名の大学生を登録管理し、パチンコ・パチスロ遊技機の納品設置業務を担当しています。また、全国約1万4,700店舗のパチンコホールを対象に設置機種や入客状況などのマーケット調査も実施し、新機種の企画開発などにフィードバックしています。



その他フィールド

ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社

<http://www.jsm.jp>



スポーツイベントのプロデュースや放映権ビジネスをはじめとするスポーツ・マーケティングやアスリートマネジメント、フィットネスジムの運営など、広範なスポーツ・エンタテインメント事業をグローバルに取り組んでいきます。



ホワイトトラッシュチャームズジャパン株式会社

<http://www.whitetrashcharmsjapan.com>



ハリウッド女優をはじめ多くのファッションリーダーたちに愛されているアメリカ西海岸発のアクセサリブランドです。今後は、ますます商品ラインナップを充実させていきます。



フィールズピクチャーズ株式会社

<http://www.fieldspictures.co.jp/>



映画やアニメーションなどの有力コンテンツの創出を目的として事業を開始しました。パチンコ・パチスロのみならずゲームなど「デジタルコンテンツ」を軸としたマルチユース化を図り、当社グループの一次コンテンツの創出を担っています。

ゲーム・フィールド

株式会社ディースリー (証券コード4311)

<http://www.d3i.co.jp>



ゲーム・パブリッシャーとして、日本、北米、欧州の事業会社で構成される持株会社体制のもと、ワールドワイドに事業を展開。グループ各社との緊密な連携により、欧米市場における商品化権取得活動の活発化、コンテンツプロバイダー事業の強化、およびゲームソフトのより迅速な商品企画・開発・販売に取り組んでいます。



株式会社シンクアーツ

<http://www.thinkarts.jp/>

thinkArts

パチンコ・パチスロ遊技機用画像ソフトウェア開発およびゲームソフト開発を行います。グループ各社と連携し、価値の高いデジタルコンテンツを作りこむ体制を着実に構築していきます。

株式会社フューチャースコープ

<http://www.futurescope.jp/>



モバイルエンタテインメントの可能性を追求し、“もっと便利で楽しい”生活スタイルの提案を行う会社として2006年10月に設立。フィールズの有する幅広いコンテンツを活用し、様々なエンタテインメントサービスとコミュニティサービスの実現をめざしています。

ジー・アンド・イー株式会社

<http://www.g-e.jp/>



(株) SANKYO、サミー(株)、フィールズ(株)の3社の共同資本により設立された、日本初、業界初の総合エンタテインメント企業のための人材育成スクールです。業界の基礎知識からビジネススキル向上、最新線の技術・知識を体系的に学習することができます。



株式会社角川春樹事務所

<http://www.kadokawaharuki.co.jp/>



出版、映画、音楽など多方面にコンテンツ展開するメディアミックス戦略の先駆者として知られています。当社は同社が保有するコンテンツのマルチユースに関して共同で事業展開すると同時に、同社の各種コンテンツ開発能力を活用して一次コンテンツの創造、一次キャラクターの創出を図っていきます。

株主メモ

事業年度末日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 同事務取扱所 〒168-0063 (連絡先・送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	JASDAQ
公 告 方 法	電子公告掲載URL http://www.fields.biz (事故、その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。)

お知らせ

株式に関するお手続き用紙のご請求について

住所変更、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

フィールズ株式会社

〒150-0044

東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー

お問い合わせ先 ir@fields.biz